

2025 年度 事業計画書

公益財団法人 武田科学振興財団

当財団の事業活動の財源のほとんどは、武田薬品工業株式会社からの同社株式に対する受取配当金である。

武田薬品工業株式会社が 1 株当たり配当金を 2024 年度予算作成時の年間 188 円から 2025 年度に 196 円へ増配する予定であるため、その収入増を見込み、本年度は事業規模を拡大する。

1. 科学技術に関する研究機関および研究者に対する研究助成（研究助成）
 - (1) 武田報彰医学研究助成は、財団の理事・評議員等から推薦された、大学、研究機関の研究室立上げ 3 年未満の教授または教授に相当する立場の研究者を対象に、世界をリードする医学の先端研究に対して、1 件 3,000 万円 10 件 計 3 億円を贈呈する。
 - (2) ハイリスク新興感染症研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、人類にとって脅威となりうるハイリスク新興感染症の対策に必要な基礎研究、臨床研究、疫学・社会医学的研究等の多様な研究に対して、1 件 1,000 万円 10 件 計 1 億円を贈呈する。
 - (3) 生命科学研究助成は、満 55 歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野における新たな発見に貢献し、当該分野の進歩・発展の基盤となる独創的な研究に対して、1 件 1,000 万円 35 件 計 3 億 5,000 万円を贈呈する。（対前年度計画比 5,000 万円増）
 - (4) 医学系研究助成は、医学系の満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、医学分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1 件 200 万円 240 件 計 4 億 8,000 万円を贈呈する。
継続助成は、本研究助成の 2022 年度および 2023 年度被助成者を対象に公募を行い、1 件 300 万円 40 件 計 1 億 2,000 万円を贈呈する。（対前年度計画比 3,000 万円増）[がん領域（基礎・臨床）、精神・神経・脳領域、感染領域、前記 3 領域

以外の基礎、臨床：研究助成・継続助成とも採択件数は各応募数の比率配分で決定する]

- (5) 薬学系研究助成は、薬学系の満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、薬学分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究に対して、1 件 200 万円 40 件 計 8,000 万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の 2022 年度および 2023 年度被助成者を対象に公募を行い、1 件 300 万円 7 件 計 2,100 万円を贈呈する。（対前年度計画比 600 万円増）

- (6) ライフサイエンス研究助成は、医学・歯学・薬学系を除く大学・学部や研究機関、高等専門学校に所属する満 45 歳未満の研究者を対象に公募を行い、生命科学分野の進歩・発展に貢献し、人類の健康増進に寄与する独創的な研究に対して、1 件 200 万円 40 件 計 8,000 万円を贈呈する。

継続助成は、本研究助成の 2022 年度および 2023 年度被助成者を対象に公募を行い、1 件 300 万円 7 件 計 2,100 万円を贈呈する。（対前年度計画比 600 万円増）

- (7) 特定研究助成は、研究機関を対象に公募を行い、我が国の医学の発展に向け、研究機関内の複数の部署・研究室が精力的に取り組む共同研究に対して、1 件 5,000 万円以内 12 件程度 計 5 億円を贈呈する。（対前年度計画比 5,000 万円減）

- (8) ビジヨナリーリサーチ助成（スタート）は、我が国の医学分野の進歩・発展に貢献する、将来に向けて夢のある斬新でチャレンジングな研究で、成功した場合には卓越した成果が期待できるものを対象に公募を行い、1 件 200 万円 40 件 計 8,000 万円を贈呈する。

継続助成（ホップ）は、2022 年度および 2023 年度（スタート）被助成者を対象に公募を行い、1 件 500 万円 15 件 計 7,500 万円を贈呈する。

継続助成（ステップ）は、2022 年度および 2023 年度（ホップ）被助成者を対象に公募を行い、1 件 1,000 万円 5 件 計 5,000 万円を贈呈する。

継続助成（ジャンプ）は、2022 年度および 2023 年度（ステップ）被助成者を対象に公募を行い、1 件 3,000 万円 最大 2 件 計 6,000 万円を贈呈する。

- (9) 理科教育振興助成は、国内の小学校・中学校・高等学校（高等専門学校を除く、本年度より小学校を追加）およびそれに準ずる機関の教員および職員を対象に公募を行い、理科教育に貢献する研究または実践に対して、1 件 50 万円 80 件 計 4,000 万円を贈呈する。（対前年度計画比 1,900 万円増） [小学校・中学校および高等学校の採択件数は各応募数の比率配分で決定する]

以上、研究助成の贈呈金総額は 23 億 5,700 万円（対前年度計画比 6,100 万円増）となる。

本年度は、研究助成事業として 25 億 1, 179 万円 (共通費用配賦前 24 億 7, 663 万円) を計上する。

2025 年 11 月 12 日 (水) に 2025 年度研究助成金贈呈式を開催する。

2. 研究者および学生に対する奨学助成 (奨学助成)

(1) 外国人留学生に対する助成 (外国人留学助成)

日本において医学・薬学などの医療分野で研修、研究する外国人留学生に対する留学助成を行う。

- ① 7 指定国/地域 (下表参照) については、各国選考委員会で選考され、かつ日本国内の研究機関より受入れ承認された留学候補者について所定の審査のうえ、理事長の承認を経て決定した者に対して留学助成を行う。なお、助成枠は、前年度から、台湾、韓国、ベトナムは各 1 名増、タイ、フィリピン、中国、インドネシアは各 2 名増とし、計 44 名とする。留学助成期間は 3 ヶ月以上 2 年以内。なお、このうちの 5 名 (台湾、タイ、フィリピン、中国、インドネシア、各 1 名) は、原則 35 歳以下の基礎研究者とし、その留学助成期間は 1 年以上 2 年以内。
- ② 7 指定国/地域以外の国については、日本国内の受入機関の受入責任者が申請した留学候補者について、日本国内の選考委員会で選考し、理事長の承認を経て決定する。助成枠は、前年度から 3 名増として 10 名とする。
- ③ 留学助成金を月額 30 万円とし、渡航費は実費支いとする。

本年度は、前年度繰越を合わせて総額 1 億 1, 885 万円 (渡航費含む) を留学助成する。

() は基礎研究者の内数

国/地域	2025 年度人数計画
台湾	4 名 (1 名)
タイ	8 名 (1 名)
フィリピン	8 名 (1 名)
韓国	4 名
中国	8 名 (1 名)
インドネシア	8 名 (1 名)
ベトナム	4 名
7 指定国/地域 小計	44 名 (5 名)
上記 7 指定国/地域以外	10 名
合計	54 名

2025 年 10 月 13 日 (月) に日本に滞在する外国人留学生および元外国人留学生が集う Social Gathering を開催する。

(2) 医学部博士課程入学者に対する助成（医学部博士課程奨学助成）

医学部医学科卒業見込学生および医学部医学科卒業者で、指定大学8校（北海道大学、東北大学、東京大学、慶應義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学）の医学（系）研究科博士課程基礎医学系への入学者に対し、奨学助成（年間360万円、最大4年間）を行う。

指定大学8校で募集、選考、推薦された候補者（原則各大学から2名計16名）について、理事長が最終決定する。本年度は、2022年度から2024年度の奨学助成者39名と本年度の16名を合わせた55名への助成金総額1億9,800万円を奨学助成する。

また、2023年度助成者で継続奨学助成の推薦を受けた者の中から、審査の上、研究優秀者に対し1件50万円2件計100万円を追加で奨学助成する。

2025年5月21日（水）に2025年度医学部博士課程奨学助成認定式を開催する。

(3) 海外研究留学者に対する助成（海外研究留学助成）

留学出立年度末に38歳以下の医師で博士号（PhD）保持者またはPhD取得を目指す大学院博士課程在籍者に対し、海外滞在費として年600万円の2年～4年（2年を超える滞在の場合は、2年終了前に延長の可否を審査する）、および渡航費往復60万円の留学助成を行う。

選考委員会で、業績に加え、信条、留学中の研究計画など、多様な観点から10名を選考し、理事長が最終決定する。

本年度は、8名が4年目、10名が3年目、2年目および1年目となり総勢38名に総額2億3,400万円（渡航費含む）を留学助成する。（対前年度計画比6,680万円増）

2025年2月21日に2025年度海外研究留学助成認定式を開催した。

本年度は、奨学助成事業として6億370万円（共通費用配賦前5億8,352万円）を計上する。

3. 我が国の医学界における優れた研究者に対する褒賞（武田医学賞）

財団の理事・評議員等から推薦された、医学界において顕著な業績を挙げた候補者につき、選考委員会で受賞者2名または2件を決定し、武田医学賞として賞状、賞牌、楯ならびに副賞（1件3,000万円）を贈呈する。

本年度は、武田医学賞事業として8,886万円（共通費用配賦前8,183万円）を計上する。

2025年11月12日(水)に2025年度武田医学賞贈呈式ならびに祝賀式を開催する。

4. 科学技術の時流に合ったテーマによる国際シンポジウムの開催(国際シンポジウム)
生命科学ならびに薬科学における未解決の問題を解明するために、国内外の科学者が一堂に会し、時宜にかなったテーマを基にその叡智と知識を交換する国際シンポジウムを開催する。

本年度は、第12回 武田科学振興財団 薬科学シンポジウムを開催する。

テーマ：“ORGANOID 4D: Development, Disease, Diversity and Discovery”

組織委員長： 武部 貴則(大阪大学 教授)

組織委員： 佐藤 俊朗(慶應義塾大学 教授)

森本 充 (理化学研究所 チームリーダー)

講演： 22名を予定(国内4名、海外18名)

ポスター発表(公募)

会期： 2026年1月23日(金)～24日(土)

場所： コングレコンベンションセンター(大阪市中之島)

参加者： 200名の予定

ポスター褒賞： シンポジウムに応募したポスター発表者を対象に、選考委員会で決定し、褒賞金として1件30万円10件計300万円を贈呈する。

本年度は、国際シンポジウム事業として1億1,829万円(共通費用配賦前1億712万円)を計上する。

5. 科学技術の振興に関する出版物の発刊(本草医書発刊)

- (1) 杏雨書屋蔵書の復刻版や学術書等を発刊する。

本年度の発刊予定は、『磧砂版大蔵経目録』第十三冊(附目録・索引)、『聖徳太子伝暦』、『崇蘭館本解説』、『図録 流行り病を乗り越えて』の計4冊である。

- (2) 杏雨書屋機関誌「杏雨」28号を発刊する。

本年度は、本草医書発刊事業として3,209万円(共通費用配賦前2,543万円)を計上する。

6. 本草医書、東洋学を中心とした図書資料の保管、整理、収集および公開(本草医書公開)

- (1) 研究者を対象にした閲覧、複写、所蔵品の図版掲載希望に対して必要により審査

を経て対応する。

- (2) 常設展示として2024年9月から開始した企画展「杏雨書屋の古地図―地図の歴史と日本のかたち―」を2025年度も継続する。

特別展示会は例年通りテーマを決めて春と秋に実施する。

2025年度の特別展示会予定テーマ（監修者）

4月：杏雨書屋の宗教文献II～多言語・多宗教の世界（三谷 真澄
運営協議員）

10月：未定：2025年6月頃決定（町 泉寿郎 運営協議員）

- (3) 特別展示会のテーマに基づく研究講演会を年2回開催する。
- (4) 図書資料の解説・調査作業および目録作成（電子化を含む）、所蔵図書の複製本作製、蔵書補修、書套作製を継続する。また、2024年度の杏雨書屋蔵書管理システム全面更新に伴い、同システム内に組み込む蔵書資料を写真で閲覧するシステムの開発を開始し、2025年度後期には写真の格納を開始する。蔵書、軸物等の補修は資料の重要性和損傷度を吟味し、優先順位をつけて実施する。
- (5) 本草医書、東洋学を中心とした図書資料の収集を進める。杏雨書屋にとって貴重な図書を購入し所蔵図書の充実を図る。寄附者指定特定基金を購入財源とし、上限を7,000万円とする。
- (6) 2023年7月に任命した3名の杏雨書屋研究員の研究発表会を実施すると共に、終了および継続を決定する。さらに、新たな研究員を選考・任命し、研究を開始する。

本年度は、本草医書公開事業として1億7,581万円（共通費用配賦前8,503万円）を計上する。

以 上

事業年度 2025年4月1日～2026年3月31日

資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

借入れの予定		<input type="checkbox"/>	あり	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
事業番号	借入れ先	金額		用途	

(2) 設備投資の見込みについて

設備投資の予定		<input checked="" type="checkbox"/>	あり	<input type="checkbox"/>	なし
事業番号	設備投資の内容	支出又は収入の予定額		資金調達方法又は取得資金の用途	
公6	重要古書の購入	70,000,000円		自己資金	